明治卅六年四月五日第三種郵便物認可　毎月一回一日發行

家庭雜誌

第五巻
第一號

明治三十九年一月一日發行

Dai 5 Kan. **KATEI ZASSHI** Dai 1 Gō.

宗教のさまゞ……堺 利彦……一
男女の差異……コンカー、カテコ女史 堺 利彦譯……二
細君の說法……堺 利彦……五
『いのち』のたまもの……オリヴ、シュライナ女史 金子喜一譯……七
育兒小觀……大石祿亭……八
不幸の神……大杉榮……一〇
おばさんもよ!……深尾韶……一三
花つくり問答……久田二葉……一七
十四日……上司小劍……一九
胃の腑と塵溜……堀保子……二〇
うたかた……荒畑寒村……二二
動物の變愛……大杉榮……二四
平和、愛、希望……深尾韶……二七
雜誌瞥見……三〇
記者より……三一
ローマ字欄……三三

家庭雜誌
東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目廿二番地

78476

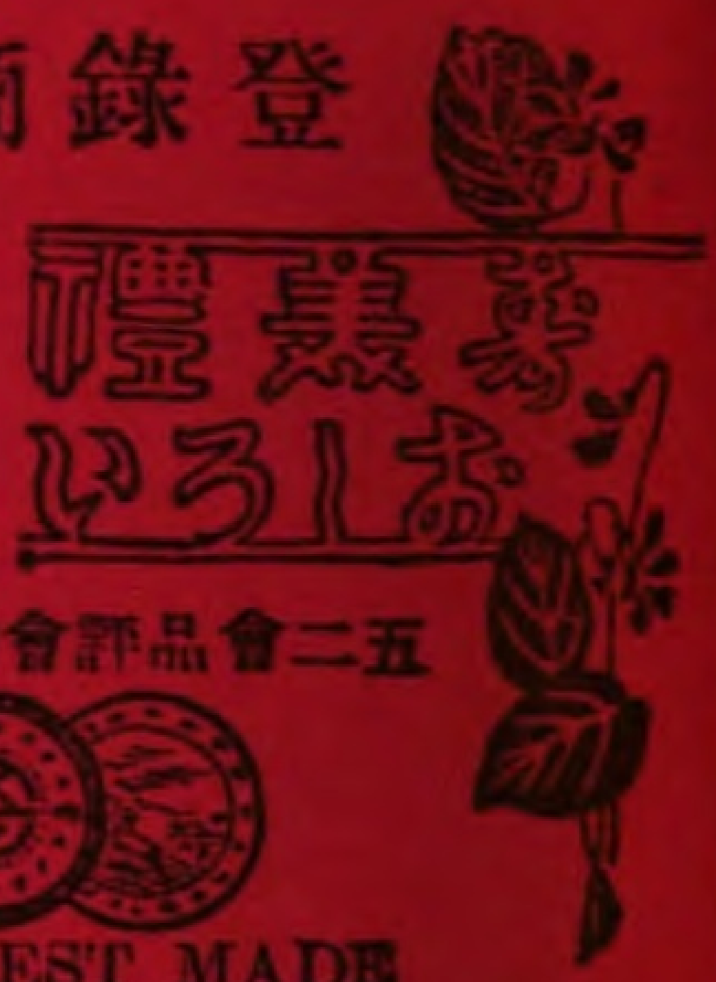
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

AP
95
J2
K37
K15

EALJ-M
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五回內國勸業博覽會銅牌及褒賞狀受領

登錄商標



五二會品評會功勞銅牌

THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE
ウワイオレツト煉製
錫蓋附乳白硝子器入
壽美禮おしろい

◉壽美禮おしろい◉

ねり製定價（大罎二十錢 小罎十二錢）水製定價（大罎二十五錢 中罎十五錢 小罎十錢）

すみれ白粉は　歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素新成蹟液體等を以て配劑しあるを以て肌を艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顏肌へを清々しく天然の色白きに至るべし菫『おしろい』は芳香馥郁と長く保つが故宴會、祝席、雜踏の場所に臨て衛生上生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

ヴワイオレツト水製
錫栓附乳白硝子壜入

◉西洋洗滌劑 壽美禮あらい粉の特性

◉弊舖製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に專ら賞賛する香料及弊店新製の原料を用ひて製せしものなれは朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくなす

◉常に髮洗ひに用ひ給へば髮のねばりを取り油あか等を生せず又半襟ハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を染白する性あり

◉使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は温湯に溶し又はぬかに混せ入浴の際用ふるを良とす

綠、藍、紅彩蝶番ひ　大袋入二錢
鑵詰六錢五厘　袋入壹錢

登錄商標
西洋色白くなるあらひ粉

SUMIRE.
Washing Powder
壽美禮あらい粉

製造本舖
東京東兩國
元町兩國橋際
壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場各劇場運動場に有り

433275
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

青山學院神學部教授山田寅之助先生著

◎埃及聖地旅行談

定價五拾錢　郵稅拾錢

基督教徒にして誰れかパレスチナの聖地を踏み其風土人情に接することを願はざらんや吾人時には夢想の雲霧に駕して壯觀を極めたるエルサレムの神殿に詣で或は想像の駒を驅てカルバリー山上に昔を偲びたること幾度ぞや山田先生躬らパレスチナの聖地を踏て其實見したる所を世に公けにせり一たび本書を繙かば宛然先生に伴はれてエジプト及びパレスチナの地を旅行するの感あり記事の項目五拾有三皆奇想卓越の評言先生獨特のものなり聖書の愛讀者必ず座右に備ふべき良書也

佐藤廣吉君著

●平和の福音

定價四拾錢　郵稅六錢

著者屢本書に記せる事共を講說して二百餘名の悔改者若くは立證者を得たる頗る實驗的の書なり思想穩健文章平易流暢苟も基督教を知らんと欲するものは一本を備へられんことを

田中達君譯

●哲學の諸問題

定價三拾錢　郵稅六錢

本書は現時に於ける哲學の諸問題を簡短明瞭に記述したるものにして一般讀者の爲めに甚だ有益なり

●馬太傳第五章石摺

定價三拾錢　郵稅貳錢

●哥林多前書十三章石摺

定價三拾錢　郵稅貳錢

根本正君譯

●青年立身傳

定價五十錢　郵稅八錢

根本正君譯

●歐米女子立身傳

定價四十錢　郵稅八錢

○Christian movement in Japan By Dr. Green.

定價二十錢　郵稅八錢

東京市京橋區銀座四丁目一番地

內外書肆　**教文館**

（電話新橋二五二六）

徳富健次郎著

巡禮紀行

此は著者の順禮土産也。著者今春思立つ由ありて飄然順禮の途に上り、パレスタインの聖地に基督の昔を偲び露西亞に巨人トルストイ翁を訪ふて歸りぬ。百二十日、舟車六千餘里の行程、境に觸れて興を起し、人に接して感を生ず。歸來筆をとりてこゝに本書を成しぬ。卷中多く著者の携へ歸れる寫眞版を挿む。本文と相待つて、一讀、著者と共に西亞東歐を旅するの興あらんか。

寫眞版數十枚入
菊半裁約四百五十頁
クロース製美本
定價金八十錢

明治四十年用

吾家の歴史

吾家の歴史は一日を往來、爲したる事、得たる思想、社會の出來事、雜事の諸欄に分ち、詩歌と、格言と、殊に其日に起りたる歴史上の事實を記載したるは趣味參考頗ぶる至れりと云ふべし、卷頭に、結婚、誕生、永眠等の家眷錄と其他の便覽を付したり、其用意の周到と注意の綿密なる蓋し稀に見る處の日記簿なり

折皮八十錢
定價布卅五錢
郵稅六錢

東京市京橋區尾張町二丁目
（振替貯金口座五五二二番）

警醒社書店

天長節を祝ふ婦人は必ず婦人世界を讀まれよ

妻君必讀

婦人世界

令孃必讀

十一月三日發行　毎月一回　第十一號　一冊拾五錢　郵税一錢五厘　半年分郵税共九拾一錢　一年分一圓七拾…

口繪
◎三皇孫殿下最近の尊影◎名家新婚寫眞◎有栖川宮姫宮殿下◎閨秀畫家とその畫◎高木博士の家庭◎悉く皆本誌獨特の珍品

彩色石版
川端玉章
跡見花蹊
小泉勝爾

弦齋夫人料理談
△菜は如何にして漬けるべきか……
△豆腐の天麩羅は如何に造るか…
△鯖は如何に料理するか……
△大豆は如何に料理するか……
△豆腐汁は如何に製するか……

◎夫妻の選擇法……坪井博士
▲男子は如何なる婦人を選ぶか……
▲女子は如何なる男子を選ぶか……

◎如何なる家庭經濟法が五萬圓の財産を成れたるか……
月給取りの妻君は此實驗談を聽け！
貯金を望む妻君は此實驗談を讀め！

◎小兒胎毒の話……ドクトル加藤照麿
▲胎毒は如何にして生ずるか……
▲胎毒は如何にして治療すべきか……
▲母體は如何に注意すべきか……
▲分娩後は如何に注意すべきか……

◎新式の月經帶……醫學士伊庭秀榮
月經の手當に苦む婦人は御覽なさい

婦人と寫眞
△古寫眞は如何に複寫すべきか
△婦人は如何に寫眞を學ぶべきか
△寫眞は如何に保存すべきか
△寫眞は婦人の職業に適するか

◎結婚前の準備は如何にすべきか……
◎三輪田女史の面影……
◎音聲を美しくする法…佐藤ドクトル

婦人の日常生活法
村井弦齋

▲臥床は如何に敷くべきか
▲夜具は如何に造るべきか
▲枕は如何に造るか…
▲寢卷は如何に造るべきか
▲湯たんぽは如何に用ゆべきか
▲燈火は如何に用ゆべきか
▲身體は如何に臥すべきか
▲寢臺は如何に用ゆべきか
▲不眠症は如何に治すべきか

家庭の[illegible]是非讀んでごら

發兌元　東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社（郵便振替貯金口座參貳六番）　賣捌　全國各地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌

第五卷第一號

明治三十九年一月一日發行

宗教のさまゞ

彥

◎基督教の熱心なる信者が「神よ！神よ！」と叫んで居るのは、恰かも芳烈なる醇酒に醉うて、全身燃えるが如くなつて居る趣きがある。

◎儒教の人が「天を樂む」などゝ云つて、泰然として居る所は、喩へば松風の響のする釜の中から、徐ろに白湯を汲んで飲んで居る趣きがある。

◎眞宗の只だ「南無阿彌陀佛々々々々々」で有がたく安心して居る姿は、さながら湯あがりの善い心持で、ツイとろ／＼と寢てしまふ趣きがある。

◎禪宗の「豁然大悟」してサッパリとした樣子は、丁度洗ひたての糊のきいた浴衣でも着て、椽側に寢ころんで煎豆でも嚙つて居る趣きがある。

◎宗教は皆人銘々の氣質と境遇とに應じて、一種獨得の趣きを呈するものと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男女の差異

Josephine Conger-Kaneko

此一篇は、紐育なる金子喜一氏の夫人ヂョセフィン、コンガー氏が金子氏の友人にして同じく米國に在る有島氏に答へて、大いに婦人問題を論じたもので、同夫人より態々其の草稿を堺生に示されたものである。譯文の責は堺生に在り。

親愛なる有島武郎君貴下

貴下は我夫金子氏に書を送りて、困難なる一問題の解釋につき予の助力を求められたり。即ち其の問題は「女子は心身兩面に於て男子と同じきか」と云ふに在り。想ふに貴下の意は「元來同じかりしか」と云ふに在らん。予は若し女子が其の體力に於て男子の如く強く、又其の生活上の特殊なる任務の爲に、精神上に於て男子よりも鋭敏なりし事を信ず。進化論より考案すれば、動物の雄は初め或る著しき方法を以て雌の心を得るの必要ありしものの如し。即ち其の著しき方法は雄の身體の美となりて現はれたり。若し雌にして弱く且つ愚かなりしならば、雄は斯くの如き方法に依らずして、直ちに其の體力を以て意のまゝに雌を屈服せしむると、恰かも今日の如くなりしならん。野獸及び魚類の中には、雌が決して雄に屈服せられず、殊に其の幼兒を有する時の如き、却つて雄よりも勇猛なる者あり。是れ性の差が必ずしも其の身體の上に著しき差を生ぜざるの明證なり。されば、予の信ずる所に依れば、女子の心に情緒の生じたるは即ち性的奴隷の起原なり。女子の同情心、女子の柔しき心が發達したる時、男子は之を濫用して次第に女子を其の足下に屈服せしめたり。今日と雖も、品性高尚なる女子が下劣なる夫に伴ひ、屢々之を棄て去らんと欲すれども、時に其夫の哀訴せるが如き巧言に遭ひて遉が氣の毒の感に堪へず、遂に其儘となる者少からず。斯くの如き女子は即ち奴隷にして、遂に何等の進歩發達を示すことなし。

されば、男女の差は主として其の境遇より來るものと云はざる可らず。貴下は曰く、若し男女が曾て同等の者なりしとせば、今日の差異を變じて其の昔に返すは容易なるべしと。然れども之れ決して容易の事に非ず。少くとも、今日の社會狀態、經濟狀態の下に於ては、決して容易の事に非ず。予は信ず、若し女子をして經濟上の自由を得せしめば、男女間の平等は必ず遠からずして來るべしと。女子にして一度經濟上の自由を得れば、今日の如く衣食住の爲に醜惡なる性的關係を結ぶ事を要せざるが故に、其の體格も大いに發達す

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るの機會あるべく、又其の獨立の觀念よりして高尚なる道德性をも發達せしむるを得べし。

但し斯くの如き發達は、今日の標準より見て、女子の美を減ずるとなきを保せず。今日最も强健なる意志腦力を有すと稱せらるゝ露國の婦人等は、決して一般米國婦人の如く華奢なる者に非ず。又多く運動遊戲等に體力を鍛えたる米國の自由婦人は、決して日本の婦人の花の如く美しく且つ柔しきに似ず。總て世界の表面に活動したる新婦人は、不規則なる姿勢を有し、且つ其美に於て缺くる所あり。例へば、ジョージ・サンド、ジョージ・エリオット、ロザ・ボンヒュール、スーザン・アンソニー、エリザベス・スタントンの如き皆な然り。彼のサラ、ベルンハルトの如きすら、猶ほ其の容姿の整はざる所あり。

然るに是等の婦人が皆な現在の社會狀態に反對して何人にも服從せず、風俗にも背反して、自已一流の生活を遂げたるは奇なりといふべし。

されば、自由と智力の發達とは必ず相伴ふ者にして、其の結果として、稍や强健なる、然しながら少しく均齊を缺ける、身體の發達を來すものと知るべし。エマーソンが其の報償論の中に云へる如く、總て一方に豐富なれば必ず他方に貧弱なるが自然の法則なり。女子に在つても是と同じく、性情の温和柔弱は身體の美を伴ひ、性情の堅實鞏固は平凡若しくば不調和の容貌を伴ふ。但しこは概論にして、多くの例外あるべきは勿論の事なり。此に於て予は貴下の第四問『米國に行はるゝ婦人の職業は果して善なるか』に答へざる可らず。

然り予は之に對して善なりと答ふ。そは女子の獨立心を發達せしめ、又社會上の責任を感ぜしむ。そは女子の智力の發達を刺激し、一般に女子をして進歩せしむ。勿論、女子を一階級として其の全般に就て考ふれば、女子は未だ學問の幼稚園に在る者にして、其の文學美術等に於ける小作物は、畢竟するに未だ學校生徒の教場に於ける製作品たるに過ぎず。只だ女子進歩の一例證としての外、決して重きを置くに足る者に非ず。然れども女子が一般社會に及ぼす道德的感化は、其の無智無學に係はらず、甚だ良好なるものあり。是れ猶ほ小兒が大人に及ぼす感化の如し。何人も無邪氣なる小兒の前にて其の惡性を現はすを好む者なし。小兒の在る處にては、貧民窟の如き道德最低の處を除きては、公然の惡事は殆んど行はれざるが常なり。故に予は米國婦人が多く職業に就くの傾向は甚だ善なりと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思ふ。但し此の傾向を生ぜしむる社會狀態は、予は決して善なりと思はず。例へば、經濟上の競爭の如き、金もうけ熱の流行の如き、女子の爲にも、一般人間の爲にも、決して善なりと思はず。然れども此の場合とは勿論別問題なりとす。

次に、女子は男子と競爭し得べきか、女子は一般社會上に、若しくば人間進步の上に、大勢力を及ぼし得べきかの問題なり。予は之に答へて云ふ、女子は既に小事件、小事務に於て優に男子と競爭しつゝあるに非ずや。更に他の謂はゆる大事業に就ては、予は今之に答ふる能はず。然れども大勢力を及ぼし得るかとの問に對しては、予は敢て云はんと欲す、予は男女に係はらず、如何なる場合に於ても、一人若しくば數人が個人的に爾く大勢力を及ぼし得る事を信ぜず。社會は常に一體として働き、一定の目的(即ち一層高き目的)に向つて一團として動きつゝある者なり。勿論、稀にはトルストイ又はゴルキーの如き大人物なきに非ず。然れども一般人民が是等大人物の心を理解し得るは、即ち謂はゆる大人物が甚だしく一般人民の上に在らざる事を示すものなり。

凡そ是等の議論は、之を續くれば殆んど際限あらざるべし。只だ要するに、人事には大潮流ありて、區々贊否の議論は到底之を左右し得る者に非ず。女子にして既に此の大潮流に乘じたりとせば、吾人は只だ其の成行を見て其の結果を待つべきなり。今に及んで女子の能力を論じ、女子の缺點を指摘して、之を云々するが如きは、畢竟無益の業たるを免れず。女子は既に餘りに遠く行けり。法令の力も之を如何ともすること能はず。而して女子も男子も、今や既に此の大潮流の上に在り。彼等は只だ前進すべきのみ。彼等の適不適は問ふ所に非ず。

之を要するに、女子と云はず、男子と云はず、人間は皆な大抵相同じき慾望希求を有す。幾百年代惡制の結果より來る男女間の小差異の如きは、吾人が人間として、個人的に、社會的に、向上發展せんとする大鬪爭の前に讓步せざる可らず。新しき境遇は新しき義務を教ふとかや。吾人は此の過渡時代に於ける女子の義務を、過去の風俗習慣に依つて測定すること能はず。吾人は只だ其の成行を見て其の結果を待つべきなり。然れども吾人は徒らに之を待つべきに非ず。各々其の境遇に應じて、自ら進んで社會の進運を助けざる可らず。(下略)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

細君の說法

堺利彥

▲嘗て本誌の第一卷に載せたのと同じ種本に依り、又是から少しばかり說法の受賣を致します（Mrs. Candle's Curtain Lecture. の抄譯）

▲夫婦で散步の途中、美しき若き娘が夫に挨拶をした、其晩の事

あゝ馬鹿々々しい馬鹿々々しい、たまに一緒に外に出たかと思へばアンナ侮辱に會ふんだもの。私の樣な者アもう一生涯內にばかり引込んで居るがいゝのだらう。

何ですツて？『一晩だけ樂に寢せて吳れ』ですツて？いゝ加減に人を馬鹿にお仕なさいよ。え？『何をそんなに荒れるんか』ですツて？いつ私が荒れましたよ。私や餘所外の女のする樣なそんなはしたない事は仕ませんからねえ。へヘン！女房と一緒に步いてる男に行會つて、忌な目をして內證でチョイト頷くなんて、そんなはしたない事は仕ませんからねえ。ナニ？あれは山田さんの妹ですと？山田さんの妹が何です。ナニ？一二度會つたばかりですと？ヘヘン！一度か二度か知らないけれどそんな事でもなくツて、何が面白くてあんなに山田さん山田さんと云つて出掛けるものですか。

アラ此人は怒つた顏をする眞似をするよ。幾らあなたがそんな眞面目くさつた顏をして見せたツて、モウ私欺されや仕ませんよ。昔やうまく〳〵とそんな手に掛つた事もあつたんだけれど、お蔭樣でもう大ぶん年を取りましたからねえ。

ほんとにズウ〳〵しい女ツちやアありや仕ない。人が知らないかと思つて、クスリと笑つたりなんぞして。そりやア私の事を定めし馬鹿な細君だと思つたでせうよ。ハイ私にやアそれがチヤアンと見えたんです。私も隨分ウツカリにやあウツカリだけれど是でも萬更の盲ぢやありませんからねえ。若しか私が盲だつたら嘸あなたには都合が善いのでせうけれど、私も目の開いて居る間は見ずにやア居られませんからねえ。私はいつもソウ考へて居たのだが、人の女房なんぞになるより、何か外の者になつた方が餘つぽど男に大事にして貰へる。私や今日もつく〳〵そう思つた。

いゝえ私は恥かしかアありませんよ。それが本當なんですもの。成程あの方は立派な品格のある娘さんで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せうよ。えゝ〳〵そうでせうとも。あなたはソウ思つてお居でゞせうよ。あの大きな帽子は如何にも上品に見えましたよ。顔にはベタ〳〵と白粉なんぞ塗つてはありませんねえ。ほんとに立派な者でしたよ。何ですと？私がジロ〳〵と彼の人を見たので、彼の人が極りわるがつて顔を赤くしたのですと？ホホ、ゝ、彼の人の顔を赤くする所が一度見たい。あんなにこてぬりにして居ちやア、あの上チヨツト赤くなり様がないでせうね。ナニ餘んまり可愛そうですと？ヘヘン！何が可愛そうだらう。本當の色艶と紅をさしたのとは、女の目で一目見りやア分りますよ。私だつて昔や是でも色艶の好かつたものです。あなたに散々苦勞をさせられて、とう〳〵こんなに窶れてしまつたのだけれど、昔や是でも薔薇の樣だとか、林檎の樣だとか、色々に云はれましたよ。あら此人は何がをかしくて笑ふんだらう。何もをかしい事はありやアしないに。

ほんとに考へると馬鹿々々しい。たまに一緒に外に出ると、會ふほどの女が皆んなアナタに挨拶をするんだもの。いゝえ山田さんの妹ばかりぢやありませんよ。私の居ない時に幾人の女があなたに挨拶をするか知れたものぢやない。だから會ふ程の女が皆んなと云つて

も善いんですよ。それが嘘なら何故あなたはあんなにジロ〳〵と女ばかり見るのです。私が一緒に居てさへあれだもの、居ない時にはドンナ事をするか知れやしない。

ほんとにアノ山田の娘たら云ふのは虫の好かない女だよ。何ですと？『良家の處女を侮辱するのを默つて聞いて居る譯に行かない』ですツて？ホホ、ゝ、そりやあなたはアノ娘の味方をなさるが善いさ。尤もあの娘に何も罪は無いかも知れない。あの娘は多分あなたを獨身と思つて居たのでせう。あなたは何時でも一人きりでノンキそうにホヽ、ツキまはつて居るから、あなたを女房持だとは誰も知りそうな筈がない。世間の奥さん達は皆な御亭主と一緒に出歩きなさるが、私や何時でも云ふ通り、餘所外の人とは違ふのだから。何がフンです。あなたは何時でもそれだ。云ふ事が無くなると鼻先ばかりで人を馬鹿にする。

そうぢやアありませんか、あなたが幾へん私を連れて歩きましたよ。そりやア私から斷る事もありますさ。あなたは何時でもそんな事を云ふ。一緒に連れて行かうと思つても、何時でも何の斯のと苦情ばかり持出すから、それでモウ誘はない事に極めたのだと。そりや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ア無理ですよ。私だつて見せ物の樣な姿をして外に出る事は厭ですからねえ。帽子が破れて居たり、羽織が何處やらに行つて居たり、小供が泣いて居たりする時に、幾ら出ようたツて出られますかよ。あなたは善う〳〵それを知つて居ながら、そんな時に限つて出よう〳〵と云ふんだもの。それがアナタの手ですよ。私はチヤアン、知つて居る。そしてよう〳〵の事で稀に一緒に出かけたかと思へば、今日の樣な始末だもの。

マア何でも善い。私や何處までも馬鹿にしられるのだから。是まで毎晩の樣に山田さんの處に出掛けて行つて、十時になつても十一時になつても、人が眠いのを怺へて起きて待つてるのも知らないで、何時までも〳〵話しこんで來るんだもの、何か面白い事がなくてソンナ筈がないと思つて居たんだ。それが今日でスツカリ讀めた。さぞあなたはお樂みでせうよ。オヤ此人は舌打をするよ。失敬な。舌打なんぞ仕たら猶のこと聽きやしないから。……

（こゝまでは我慢して居たが、御亭主殿もモウたまらず、ズル〳〵と寢床を滑りだして、子供の寢台にもぐりこんでしまつた。）

「いのち」のたまもの

オリヴ、シユライナ女
金子喜一譯

△この一小偶意的小話の著者シユライナ女史は南アフリカの住人で、そのいまだ二十歳を越えぬ時、「南アフリカ農園の話」と題した小說を書いて名をあげた女性である。この小話は「夢」と曰ふ同女の書のうちから拔いたのである。シユライナ女は女權女性解放と曰ふやうな題目がその念頭に燃えてゐて「夢」の中にもこの種の強い小話が澤山ある。予は日本の女性問題に志ある人に向つて是非シユライナを讀みたまへと勸めたい。

予は眠つてゐる一人の婦人を見た。彼女は眠れる間に「いのち」の神が彼女の前に立ち、双方の手に一ツ宛、たまものを持つて起つてゐるのを夢みた。——一つの手には愛と曰ふたまもの、一つのには自由と曰ふたまもの。

「いのち」の神はこの婦人に向うて曰うた。

「えらびたまへ」と。

婦人は長時ためらつたのち答へた。

「自由を」と。

「いのち」の神は曰うた。

「汝はよくも選んだ。もし汝が愛をと曰うたなら、吾はそれを與へたであらう。そして去つて再び戻らなんだであらう。されど汝が自由をと曰ひしため、吾は再び來るであらう。——而してその時こそは二つの賜物をば一つの手に握り來るのである」と。

予はこの婦人が眠りの中で笑ふのを耳にした（をわり）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

育兒小觀

大石祿亭生

○余はこれまで育兒の問題に就て多くの注意を拂ひし事なく、又一度も之に關する考を公けにした事がない。それは自分が未だ人の親である事を信じ能はず、よし之を信じても自ら顧みてそれだけの資格が無いと思ふからである。隨つて余が茲に述べんとする育兒觀が世人のそれに較べて多少趣を異にする所あるは止むを得ぬ所である。

○世人は子と言ふものが主として親によつて育てられるものと信じて居るらしいが、余は決して而か信せず、子は親が育てるものに非ずして獨りで育つものであると思ふ。獨りで育つと言へば可笑しく聞えるかも知れぬが、親より外の社會の境遇と遺傳などが之を化育するに大部分の力を占むるもので、親が乳を吞ませるとか着物を着せるとか學費を與へると言ふ樣な事は、其量に於ても質に於ても甚だ僅少なものであらうと思ふ

○親が何れくらゐ自分の思ふ通りに子を育てやうとした所が、全く之を監禁でもして置かぬ限りは、四邊の境遇から受くる感化は甚だ强きものであつて到底之を遮る事が出來ぬ。例へば余が家に當時滿二歲になる子がある。彼は書籍や雜誌の樣な物を見ると小脇に抱へて、表の方へ走り出すので何所へ行くのかと問へば學校へと答へる。余は平生から今日の樣な學校へ子を入れる事を馬鹿〳〵しいと思ふて居るものであるが、所謂親の心子知らずで彼は何時の間にか斯んな惡るい事を覺へて來るのである。

○彼は又折々、巡査が來たら怖ろしいと言ふが、實際は巡査から叱られた事もなく、何等の害を被つた事もなく、唯世間でさう言ふ事を聞傳えて來て、小供心にも巡査と言ふものは普通の人間と違ひ惡いものである又恐ろしいものであると言ふ事を覺込んだのである。これは箇人なる巡査に對しては誠に氣の毒な譯であるが、實際今の世に警察と曰ふ惡制度が存在する限り、之によつて小供に誤つたる思想を傳ふるも亦止むを得

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬ次第である。
○人は皆其情に於て我が子を立派なものにせん事を希望し、多くの子を持つた親の心として其子女が殘らず立身出世せん事を望むは當然であり、又此望を遂げたるものは美しき家庭の人として讃えらるは常であるが余は私かに思ふ、此世に多くの墮落したる子供があるに係らず、我子のみ成功したりとて何で眞の成功であらう。社會に無數の不幸なる家庭があるに引換へ、我家のみ安穩なりとて何のそれが幸福であらう。
○世間には又、往々斯んな事を言ふ人がある。自分は此年になつてもう何事も出來ぬが、唯小供だけは立派に教育して置く積りであると。然るに余は之を以て最も無意味な事と思ふ。何となれば我々が箇人として社會に負ふ所の任務は箇人自らによつて果すべく、之を他に讓りて其責を免れ得べきものでない。自分が働く代りに其子を養育して之に代理を務めさせんと言ふは恰も百姓が自ら田を耕す代りに多くの土地を買占め、小作人に働かせて無事に一生を送らんと言ふが如く最も横着な考へであらう。子は獨立の箇人として社會に盡すべき義務こそあれ、決して親の代人として其責任を分擔すべきものではあるまい。
○而のみならず、今日の社會を見渡すに大凡親は自分の慰みか或は利欲の爲に子を養育するもので、眞に我子をして社會に貢献させんとて之を爲すものは甚だ少いのである。若しも人間が箇人として社會の爲に盡瘁すべき義務を悟り、或一箇の事業によつて自己の使命を果さんとするに方つては、假令自分の子を養育し能はずとも、善き子を持てる親と賞讃せられずとも何の憚る所があらう。余は之を我子の教育にのみ腐心して他に何事をも爲さざるものに較べ、遙かによく人生の目的に適ふたものと思ふのである。

聖靈は、吾人が年代學や物理學や論理學を學ぶを喜び給はず。而して、吾人をして只だ彼れを恐るゝの人たらしめんと欲す。何となれば何ものをも知得する能はざるとき、吾人は只服從の外なければ也。

ヴォルテール

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不幸の神

大杉榮

君、彼れを見たりしや。

痩せ衰へたる蒼白の面、見るからに怪しげの心地ぞする。灰色なせる頭髪は亂れて長く顱顬に流れ、胸を掩ふ鬚髯は半ば赤茶けて焦色を呈す。其の眼は、正に、黒き、深き、二つの窩。其の口、開かば、齒齦破れたる下、薄黒き齒の見ゆるあらん。

君、彼れを見たりしや。

其の容貌は、常に悲哀の色、さなり、癒ゆ可らざるが如き悲哀の色に滿てり。彼れや、產れたるを悲しみ生きつゝあるを歎き、而して又、死せざるを憂ふ。

君、彼れを見たりしや。

其の衢を過ぐるや、人群の中を、常に孤り、目的もなく、只歩のまゝに進む。傍目もふらず、耳立つる事もせず、只眞直に行く。形高き、ツバ廣の帽子を、無造作に頭の上に乘せ。使ひ古されて、垢に輝く上衣に

其の長き、醜き體軀を包み。綻びたる靴には、水溜にあふ每、泥を呑ませて。

彼れは抑も誰れ。

何人も之れに答ふるを得せじ。何となれば、何人も彼れを識らざれば也。彼れは、倶に笑ひ、倶に語らひ、倶に悲しむの友を有たず。彼れは、其の沈思を、深く鎖して、只孤り行く。彼れは、何人に出遭ふとも、立止まる事なく、只眞直に進む。沈思と悲哀とを懷いて只孤り行く。

噫、斯く不幸なる彼れ、彼れは抑も誰れ。

* * * * *

君は抑も誰れ。

斯く常に孤りにして、斯く常に悲哀に暮れて。君よ、道過ぎる人々は、驚き呆れて、君をしも凝視むるに非ずや。されど君は、凝視めらるゝをも知らざるが如く、又驚愕かるゝをも見ざるが如し。

君は抑も誰れ。

我れ、君を識らまく思ふ。何人も知らざる、而して

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友よ、我れは不幸の神也。我れは、常に孤獨なる者也。過去にも、現在にも、將た未來にも、常に我れは孤獨なる者也。悲哀てふ悲哀は、總て皆、我が身に蓄積せらる。我れは、總ての悲哀を、我が身に藏す。我れは又、常に不幸なる者也。我れは、癒ゆ可らざる不幸、窮め盡くる事なき不幸を有つ。

友よ、君は、我れを悲哀に滿てると云へり。君は、我れを不幸なると呼べり。さなり、我れは不幸の神なり。始めなき、終りなき、不幸の神也。

彼れは、少時聲を休めて、再び云ひぬ。

友よ、斯くても猶、君は我れの友たらんとするか。斯くても猶、君は我れを隨へんと云ふか。斯くても猶君は我れを伴はんと云ふか。君は、強いて我が伴侶たるを望めど、君は、君の生命の如何に悲哀に陷るべきかを、未だ知らざるなる可し。君は、君の生命の如何に苦痛に終るべきかを、未だ知らざるなる可し。友よ、斯くても猶、君は我れの友たらんとするか。

彼れは、白き聲にて、白き聲にて、何人も未だ嘗つ

又、何人にも識られんと求めざる、君を、我れは識らまく思ふ。君の深く鎖せる沈思を、君のいたく惱める悲哀を、我れは知らまく思ふ。何人とも、倶に笑ふ事なかりし、何人とも、倶に語らふ事なかりし、君と、我れは倶に笑ひ、倶に語らはんと欲す。君よ、我れは君の友也。親しき、親しき友也。慰安の言葉も與ふ可く、又、憫憐の言葉も與へん。語れ、語れ。友よ。君は抑も誰れ。

我れ斯く云へる時、彼れは、彼れの傍に、人、しかも既に彼れの友たる、人あるを感ぜるが如かりき。彼れは、ふりむきて我れを凝視めぬ。噫、其の凝視！刺すが如き凝視！黑き、深き、二つの窩なせる眼！而して彼れは、我れに、既に彼の同情ある友たる、我れに近づきぬ。されど、敢て手を握らんとは爲ず、只答へて云ひけらく、

友よ、我れは不幸の神也。

* * * * *

彼れば語を續けぬ。

て聞きし事なき聲にて語りぬ。其の言ふ所、只悲哀に滿てり。限りなき悲哀に滿てり。

遂に、得堪へずして、我れは其の手を握りぬ。彼れの眼は、異樣に輝きて、再び我れを凝視めぬ。

不思議！不思議！彼れの容貌は、今一變せる也。其の眼は、窩の底にて、微かなる光を放ち、頰には薔薇色の血の往來する見ゆ。彼れは、我れの手を取りて、確かと握りぬ。

嗚呼、我れ遂に友を得たり。我れを恐れざる、我が友たるを恐れざる、友を、我れは得たり。嗚呼、友よ今は我れ孤獨ならず。來れ、友よ。來れ、來れ。

友よ、我れは不幸の神也。されど又、我れは叛亂の神也。

* * * * *

友よ、我れは不幸の神也。されど又、我れは叛亂の神也。總てのものに叛す、現存の總てのものに叛す、我れは叛亂の神也。

友よ、今は我れ孤獨ならず。働かざる可らず。此の世より、不幸てふ者を消えしめんが爲めに、今は我れ働かざる可らず。

友よ、今は我れ友を得たり。鬪はざる可らず。此の世より、不幸てふ者を消えしめんが爲めに、今は我れ鬪はざる可らず。我れ等の兄弟を惑はす、彼の迷信を打ち破らんが爲めに。我れ等の兄弟をつなげる、彼の鐵鎖を打ち壞さんが爲めに。

友よ、我が悲哀は消え去れり。友よ、視よ。我れを視よ。

彼れの容貌は一變せり。其の眼は、今や、幸福と叛亂との二閃にて輝く。

新刊紹介

△子ども（尺秀三郎著）本書は獨逸にて有名なるプロツス氏の著書を譯述加刪せる者。章を、臥させ方抱き方、（負ひ方）揺り方、坐らせ方、歩ませ方の五つに分ち、東西古今の未開人及び文明人の兒童保育の方法を比較詳述す。文章平易にして珍しき挿畫に富む。育兒の事に當る士女は、本書を讀みて指導せらるゝ事、蓋し少なからざる可し。（東京本郷區一丁目七番地育成會發行價五十錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

オバさんもよ！

深尾韶

思ひ出多き或る夏の夕暮であつた。予は又いつもの如く獨り淋しき思ひに耽らばやと、フト家を出で狹き路次をダラ〱と左に下りて行人稀なる裏路に出た。女子學院とそれに列ぶ西洋人の住居の大きなペンキ塗の建物が、青葉の彼方、百日紅の花の上に匂つてゐるのが、夕暮の氣を啣んで夢の樣。予は嘗て屢々女子學院の門を通りすがつて優しきピヤノの音に我足を留められしこと幾度なりしかを思ひ浮べ、そして我が理想の國の地上に現じ來らん時、かゝる淋しく辛き夕は、親切なる少女の我が爲に奏でくるゝ樂しき曲に心を慰めばなど、座ろに未だ來ぬ世の面影を偲びつゝ、石垣に沿て、只ある小學校の角を曲り、尙もそこはかと歩を進めつゝ漸く丁字街の處へ來た。そして予は其處に圖らずも懷かしく床しき新時代の面影を見たのであつた。

『淸ちやん、澄子さん、あなたお玉手して遊ばなくつて？』と遠くから金切聲で友達を呼ぶ女の子、すると今丁度、表から淸ちやんに聲を掛けられて格子戸をガラりと開けた澄ちやんは『ア、あたい仕てよ。淸ちやん、あたいお手玉を持つて來るから待つてゝ頂戴な。貞ちやん、今行くから』と大きな聲して家の中に驅け込んで、兩方の手にお手玉を一パイ摑んで格子戸をガラリピシャリ『貞ちやん、お手玉持つて來てよ』と木犀薫る板塀の傍に集つたのは、揃ひも揃つた可愛い女の子、そこにも一人『花ちやん』といふのが五歲ばかりの妹をつれて來て併せて五人。『さあ石拳しましせう』と石だの紙だの剪だの頻りに出たり引込んだりしてゐる。何を思ひついたか急に花ちやんが手を引込まして了つた。『オバさんもよ！』

『さうだ、オバさんもよ！』『オバさんもよ！』『オバさんもよ！』と一同は躍り上つた。女の子だちの顏は喜びと望みとの色に滿ちた。そしてバタ〱と木犀の門に馳け込んだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『オバさん來つしやいな。お手玉して遊びませう』可愛い口々から叫ぶのであつた。『ハア今行つてよ、待つてゝ頂戴な』と內から若々しいオバさんの聲。予は遉にと思つた。女の子だちは大旱の雲霓の如くオバさんの出るのを待つて居る。やがてスーツと障子の開く音がして、チリチリンと鈴が響いて、カラカラと格子戶の輕く辷る音がして、オバさんは小供だちに袖を攫へられたり、帶にブラ下がられたりしながら出て來た。オバさんの脊には二つばかりの奇麗な赤ん坊が負さつてゐて、五つばかりになる此赤ん坊の姉さんも手を引かれて、一緒に外へ來た。女の子だちは『オバさん仕ませうね』『ねえオバさん』とオバさんの周を跳ね廻つてゐる。オバさんはニコ〳〵しながら脊を搖ぶつてゐると、皆んなはモウ得意になりきつて『花ちやんから始めるのよ』と、調子づいて犬の子の樣にキヤン〳〵騷ぐ。

『一イ、二ウ、三イ、四オ、五ツ、六ウ、七ナ、八ツ』もう始まつた。お手玉はピヨン〳〵と空を飛ぶ。澄子

さんもオバさんの袂を離して其方に向く。オバさんも『一イ、二ウ』と聲を合せる。飛び上り、飛び下るお手玉から眼を離されぬ花ちやんも嬉しげにニツコリして又一層聲を高くして『一イ二ウ』とやつてゐる。花ちやん、淸ちやん、澄子さん、貞ちやん、一わたり順番がズツと濟むと、お手玉に誘はれてダン〳〵に十間ばかりも彼方へ離れて行つた小供だちは、又バラ〳〵とオバさんの許へ驅け寄つて、『さあオバさんの番よ、オバさんの番よ』と右からも左からもせがまれる。オバさんが何か些と逡巡つてゐると、澄子さんは其の唐縮緬で作へた小さなお手玉を無理にオバさんの右の手に摑ませて、そして自分の手の屆くかぎりオバさんの手を上の方へと押しやるのだ。オバさんは予の方を見てチヨツと恥かしげにしてゐたが、やがて思ひ切つて、『一イ二ウ』とやり出した。小供は歡呼喝采の聲を擧げた。十、二十を數へたけれど玉は未た却々落ちぬ。三十、四十、五十と、上り下る靑や赤や黃や白やオバさんの手の內の巧なることよ。脊の小供まで肩の上から

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

欲しさうに手を出してゐる。予は此の美しき光景に眺め入つた。見よ其の結立の綠こばる丶丸髷の下にホノ見ゆる赤き手柄を、是れ若々しく燃ゆる少女の血ではないか。二人まで作せる小供の苦勞は未だ二十三四には過ぎぬ花の盛りを、悼ましくも其の面には大分痛苦の波を刻んでゐるが、それでも「一イ」といひ「二ウ」といふ聲には流石に無邪氣な昔の面影を留めてゐるのだ。あ丶此の愛らしき小供等の『オバさん』なる妻君は早く十七八にして既に一人のおッ母さんになつてゐたのであらう。そして顔には痛苦の波が寄せても心は常に希望と平和と愛とに輝いて來たのであらう。多くの人、多くの場合は、揉まれ揉まる丶世間の樣々の艱難に、顔のみかは心までも曲つてねじけて、人の子の泣くのをば、うるさいとて打叩いて、これでもか、これでもかと叱りとばすも珍らしからぬに、これは又何といふ優しい心ぞ。つゆ歪んだ氣も持たぬが、やがて虛心平氣な小供の善き『オバさん』となつたのだ。あ丶世の中『生計』といふ灘さへなくば、二十歳や三十の若者が何も苦しんで大人ぶることをせずとも、かうして小供を相手に遊び、罪といふ罪を離れて、呑氣に氣樂に暮らして行けやうものを。と思ふにつけても予は此の素性善き、ひねくれの見えぬ『オバさん』の益々氣高く見られるのであつた。讀者よ想像して下さい、十か九つの小さき女の子四人、ふくよかなる顔、風になぶらる丶お垂髮、裾短かな中形の紺絣、鴇色メリンスの兵兒帶。それに交る赤ん坊を負つた丸髷、ジミな腹合せ帶の年增、何といふ好い反映であらう。

夕陽は『今日』を辭し去らんとして、今名殘に細き細き金線の幾條かを『オバさん』の顔に投げ掛けた。眩しげに振り仰ぐ『オバさん』の顔は少し面瘦がしてゐるけれど、其の人懷つこい眼と情けある口許は、たしかに女神の樣な一種の威嚴を示してゐる。

お手玉は又一順廻つて『オバさん』の所へ來た。オバさんは今度は別に笑ひもせず躊躇ひもせずに直ぐと手に取つた。澄ちやんも花ちやんも貞ちやんも淸ちやんも、皆んなオバさんの手に見とれてゐると、小さな六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つぱかりの女の子が又三四人集つて來て、後の方から之を見物してゐる。縄跳をするとて古い縄を何處からか拾つて來た男の子たちも縄の端をカメに戯らさせながら眺めてゐる。道を行く人が一々横を向いて之を見て微笑んで通る。木犀のお隣の木戸が開いたのを合圖の樣に、あちらでも此方でも入口の格子戸が開く。そして姉さん、おつかさんなんどが首を出して興ありげに之を見物してゐる。丸い軒ランプの出てゐる家と其筋向ふの家だけは、今夕飯の支度にでも忙がしいか、格子戸も開かず、人の顏も見えぬのが、いかにも特例で寂しいやうな氣がするのも可笑しい。

やゝ靑みを帶びてゐたオバさんの顏には血の氣が昇つて來て、ポーッとばかり紅を潮した。そうして最早や全く小供の無邪氣に還つたオバさんは、自分のやつてゐる小供らしい遊びを決して恥づるものではなかつた。彼の胸は熱心に燃えてゐる。十、二十、三十、四十、五十、百、百五十、蝴蝶の如く飛ぶ彼の技術は益々巧妙を極めて遂に百九十を數へて漸く止んだ。

小供は『まあオバさんが』と其の入神の技を讃へてゐる。そこに一人の兵士がやつて來て、上氣して美しくなつたオバさんに丁寧に道を聞いた。あたりの視線は期せずして一齊に其處へ向いたが、オバさんは此の若き兵士から問ひかけられて恥かしげにもせず、さりとて又うるさげな樣子も見せず、殆んど手を取らんばかりにして、此處を此う行つて、彼處を彼あ行つてと、丁度自分の幼馴染にでも會つた樣に親切に話してやつてゐる。予は之を見て深く〲新時代の婦人の面影を偲んだ。欲も得も頭に上らぬ時代の、只其の技に熱中せる、そして不親切といふ惡德を味ひ知らぬ人の美しさは、丁度このオバさんに彷彿として我等の眼前に現はるゝではないか。木犀の隣の前垂夫人、其筋向ふのバイオリン孃其の一軒おいて隣の鼻皺未亡人なども亦一種の感に打れてか、瞬きもせずに見まもつてゐる。

玉突場の前では、集まつて來た男の子の『子を取ろ子取ろ』の遊戯が始つた。兵士は嬉げにイソ〲として彼方に行た。又お手玉は一順廻つてオバさんの番になつた。今度は脊の子を下して姉さんに手を牽かせて、そしてオバさんは又お手玉を手に取つたのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

花つくり問答

久田二葉

（一）

△花は極く好きですけれど土いぢりは出來ませんが快よく之を行るやうになる工夫？はありますまいか

日本のやうに農業や園藝に對する趣味や智識の發達した國で、土いぢりがイヤだと仰有るところを見ると、唯だ土は不潔なものだとか、之をいぢれば手が荒れるとかいふ丈けぐらゐが原因なのでせう。それならば最初種子＝あの小さい清潔な種子の間から御自身の手にかけて、一鉢ぐらゐでもよい故作つて御覧なさい。汚ないと思ふ土から可憐な甲拆葉を出し、見る〳〵生長して行く様を朝夕見て居たならどんなに趣き多いことでせう。而も一朝水をやるのを怠ると直ぐ勢がわるくなるから、鬼でない限りそれを眺めるに忍びぬ故、不性せずに進んで水も遣るやうになります。また根が土の中から出て幹が傾きそうになつて居り、或は肥料が足りないで成長し得なかつたり、害虫が發生したりなどして現に其の可愛らしいものが困つて居る様を見てどうして土の穢いことや、虫のおつかないことに頓着されませう。即ち小兒は母親の鏡だといふやうに、花は育てる人の爲る通りになるのであります。で、此の間の消息を實際に味ふと、園藝の高尚有益な娯樂であることは自然に感得され、土いぢりは少しもイヤでないやうになります。近時各女學校などに學校園といふのが出來て、菜も花も作る時、先づ困つたのは女學生が此の土いぢりを嫌ふことでしたそうな。ところが前に申しましたやうに種子の中から一人〳〵に育てさせて見ると、進んで雑草を除き水を遣り肥料を與へるやうになるとのことも聞きました。

（二）

△十一月になつたら、花の種はもう何を蒔いても育ち難いでせうか？

それは地方によつて一概に申されません。九州や四國や靜岡地方は、秋蒔草花のパンジー、紫羅欄花、金盞花、ロベリア、スキートピース、石竹などを蒔いても

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

充分に育ち、來年の春は見事に咲きます。けれど東京や北陸地方などより東北の方は、もう露地に蒔けませんが、箱室や南向の軒下などならば、まだ〳〵蒔いてもよいので、來年を待つには及びません。又た之等の蒔方も極く簡易で、唯だ床をこしらえて播種し、細土を種が見えなくなるほど撒布してやればよいのです。

（三）

△水仙などの今植ゑて春早く咲く球根草花は何々でせうか。

之は種子を蒔く普通草花と差つて十月中旬からが、最も適當の植付期節であります。ですから此頃より來年の二三月迄はよいでせう。種類はハヤシンス、チユーリツプ、クロツカス(花さふらん)アチモチ、ラナンキユラス、フリージヤ、水仙など主なるものでせうが、皆な普通の種苗店に賣つて居ります。

（四）

△秋植球根草花の植方や其後の手入は如何にしたらよいでせうか

前項で期節と種類の大體が分りましたから今度は球根植付の深さ及び株間です。之は水仙、チユーリツプの

類は株間を五寸乃至一尺とし被土の深さを三寸許にしたらよいでせう。又たクロツカス、アチモチ、ラナンキユラス、フリージヤなどは株間を三寸乃至七八寸にして被土の深さを二寸ぐらゐにしたらよいでせう。殊に株間などは植場所によつて斟酌せねばなりませぬ故其時は之を心とすれば好いといふくらゐに過ぎません

それで球根を植付るには先づ土を深く打ち起し、軟かく細くして平に均らし(肥料を敷き込んで)前の深さ及び距離を保たせて植え込み、時々水を遣つて土が乾き過ぎぬやうに心がけねばなりませぬ。そうして補肥を施さぬこと、移植せぬことなども心がけて置けば、もうそれで充分育ち早春から目覺めるやうな美しい花を代る〳〵に見せるでせう。

（五）

△菊の花の終んだのは其儘にして置いてよいでせうか。

軒下へ邪魔にならぬやう取込み、餘り乾き過ぎもせず、又た濕氣も少いやうにして爲て冬を越させるのが最もよい方法です。けれど普通に畑や籬の下にあるのは其儘でよいでせう。併し餘り寒氣が強いと藁で手輕な霜除をこしらえてやれば安全です。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十四日

上司小劍

今日は日曜なり、神と云ふものを信せざる我にも日曜はお休みと云ふことなり。氣轉の利かぬ神樣かな、ドウセ自分に損の行くことならねば、セッセと夜なべでもして、四日間ぐらゐに天地を造りあげて仕舞へば、日曜は今日の倍もありて、我等始め天下後世の腰辨ーウヂャ〳〵と幾千萬もあるべき腰辨連中は、皆神の恩の大なるに感泣し、教會にドウマ聲をあげて讃美歌を歌ふ人間も、今日に幾百倍したるべきになど怪しからぬことを思ふ。

以上は朝寢の夜具の中にて考へたることなり。八時ごろムックと起きて、顏を洗へば心機一轉、天の蒼き、日の赤き、鳥の唄へる、柿の實れる、人の喋舌る、溝の臭き、いづれか神の賜ならざるべきを思ひて、忽ち神の德の大なるを感ず。茄子の油あげにて朝飯うまし。十時ごろ四五軒を距てたる家の細君、何か用ありて來

る。臺所にて語るを聞けば、相も變らぬ亭主の惡口なり、今日は休みで、朝から酒を飲んで居る、毎日〳〵酒ばかり飲んで居て困ると云ふ。幾ら酒が高くとも、毎日〳〵酒ばかり飲んで生きて居る人間あらば、飯を炊く面倒も無く、おカズを拵へる世話も無く、まことに便利なるべしと思ふ。

この細君の亭主と云ふは、小學校の小使を勤むる人にて、よく〳〵小と云ふ字の好きな人と見えたり。赭ら顏の見たところ正直さうな人なれど、能く夫婦喧嘩をする。『イツまでも小使なんぞして居たッて、……』と細君が例の通りの不平を云ふが聞ゆ。大將と少將とにては、位こそ違へ、おなじく、所謂えらい人たるに相違無からんに、大使と小使とにては、比較にもならぬほど、所謂えらさが違ふは面白しなど思ふ。間も無く、小使の細君歸る。やがて正午なり。

午後は机に向つて、オクタブ、ミルボーと云ふ人の「火の雨」と云ふ小説を譯し始む。漸く第一回を譯し終らんとする時、白柳秀湖氏來り、將棊を指さうと云ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

飜譯は出來たゞけを(上)として我が「簡易生活雜誌」に掲ぐることゝし、仰せに從ひて將棊に取りかゝる。一番負け、一番勝、名家の手合はせなれば、時間を費すこと夥し。つひに晩飯となる。

晩飯のおカズはトロヽ汁なり。我れも秀湖氏も共に大の好物、見ン事六七椀づゝを平げ、腹を撫でつゝ散歩に出る。途中にて立小便をする。向ふより巡査來る。南無三失策つたりと觀念してあれば、巡査は何か忘れ物でもせし風にて、元來た道へ引き返へす。ホツと息をつく。

散歩より歸りて、秀湖氏及び田中珂川氏と、燈下に栗を喰ひつゝ、露國の革命を語る。十四日の夜は漸く更けたり。

人は社會の奴隷也。運命彼れを其の社會に產む。社會は彼れの思想を鑄、思想は彼れの習慣となり、而して習慣は彼れの行爲を支配するの勢力となる。

エムチドー

胃の腑と塵溜

保子

郊外生活の健康に適する處から、或る懇意な方が、塵の多い市中を去つて、青々とした大根畑に圍まれた、隣家が植木屋、近く牛乳搾取場の牛の鳴くのが聞こえるといふ、其の御夫婦の理想に頗る適した目黒の新宅へ引越した時、其のお祝ひとあつて、午餐の御馳走を頂戴に參りました。

　心利いた奥さんのお手料理で、時節柄、松茸飯に鯛のお吸物といふ結構な御献立、その甘しいのとお客の中に男の方が交つてゐて、お話が面白かつたのとで、主人側もお客側も、平生よりはお箸がはづんで、近頃にない賑かな午餐會でした。

「マア最少し召上がれ。」

「イヽエ御遠慮は致しません。充分頂きました。」

の紋切形までは、ようございましたが、遂に奥さんは飯櫃を小脇に控へて

「どうぞモツト上つて下さい。殘ると後で困りますから。」

と茲を先途とお勸めなさるのです。すると、平生から皮肉家を以て有名な一人の男客が、

「私達の胃の腑は塵溜じやありません。殘るのがお困りなら、お捨になつては如何です。」

と答へた其の言葉が痛快だといふので、男の方達は大に喝采しました。それで遉がお勸め上手の奥さんも

「マア隨分お口が惡るい、何もそんな意味で申したのぢやございません、皆さんがモウ無いと思つて御遠慮なさるといけませんから。」

と、トウ〳〵飯櫃を引込めてお了ひになつたので、私どもは何だかお氣の毒に堪へませんでした。

　けれども世間には隨分ひどい無理强もあるもので、嘗て夫れに懲められた經驗のある皮肉家さんだからこそ、こんな慘酷な言葉も出たのではあるまいかと思はれます。實際既に滿腹になつた上へ、モツとお腹へお詰め込みなさいといふのは、貴方の胃の腑をお壞しなさいといふのと、同じ事で其の御厚意だけは頂戴しますが、無理强いの二の膳附とは隨分亂暴な御馳走ではありますまいか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うたかた

荒畑寒村

『もう一年になりますが、秋の晩れ方の事でした。その日は朝からドンヨリ曇つて、濕つぽい風が吹きまくるので、賑やかな廓のなかも、ヒツソリとして、何處からもペンともシャンとも聞えませんでした。その晩なのです、私のかゝつて居た妓樓の二階を通ると、突き當りの室からキヤツといふ悲鳴が聞えたのでせう。吃驚しましてネエ、何だらうと思つて、飛んで行つて見ますと、マア情死なんですヨ、それが。二人とも美事に剃刀で咽喉を…………。そして綿の樣な血のなかに、仰向けになつて、事切れて居たぢやありませんか。』

永い放浪の旅から歸つた私に向つて此の憐れな娼妓と、その云ひ交した男との、情死の有樣を語り出したのは、ある遊廓の、私の家の近所に住むで居る一藝妓でした。肌にさはる風が、ア、秋もモウくれるのか、と思はせるある日の夕ぐれ、私は聞くだけでさへも、モウ霜枯れの寂しい廓の夕べを想像して、そして恐ろしいその場の有樣に、うろたへて居る多くの人々の姿までが、ホントに目に見える樣だつたのです。

『それでマア樓中大騷ぎになつたんですが、二人ともチヤンと覺悟の上だと見えましてネ、親や主人に宛てた遺書さへ、枕頭に置いてあつたんですヨ。そしてマア可哀想ぢやありませんか、花魁は平素から可愛がつて居た人形を、自分の背中へシカとくゝり付けて居たんです。何でもズツと前の事だつたそうですが、何處かでその人形を買つて來て、まるで自分の子に生き寫しだといふので、大騷ぎでしたが、それからは、今まで陰氣な人でどうにも仕樣が無かつたのが、大變テキパキして來ましてネ、そして間がな隙がな、それを抱いては、まるで人にでも云ふ樣に色々な事を話しちやア、着物を縫ふやら、御馳走を供へるやら、そうして又時々、その人形を抱きしめて泣いて居る事もあつたそうです。それといふのが、固とは何處かのお孃さんで、マア何不足なく育てられて居たのですが、お嫁に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

行てから實家の方が商買に失敗る、お母さんが病死る、といふ破目になつたものですから、自然と嫁づいて居る先とも折合が惡るくなつて、可哀想に子まである間を、到頭離縁されて、實家へ歸つて來たんです。處が實家はモウ困り切つて、穢ない裏長屋へ引つ込んで居て、わづかに殘つて居るもの等が、一層涙をさそう有樣なんでせう。そしてお定まりの、收入りの無い上に、お父さんは自棄酒をあふる、二進も三進も行けなくなつた末は、浮川竹の泥水商買。こんなことをいふと笑はれるかも知れませんが、私し達だつてホントに氣の毒だと思ひましたヨ。

だもんですから、モウ可愛い子の面影が目について忘れられず、その事ばかり云つちや欝いで居ましたがその人形が出來てからは、まるで巡禮にでも出て居た一人ッ子が、瓢然歸つて來た樣に、それは〳〵その可愛がり樣つたら、傍で見て居るのでさへホントに涙がこぼれる樣でした。そりやイクラ泥水賣買はして居たつて、やつぱり女でさア子、人並みに子の可愛い位の

事は知つて居ますから子エ。それに素性が素性だし、至つておとなしい人だつたもんですから、誰れでも皆お氣の毒に思つて好遇して居たんです。

處がやつぱり運なんです子エ、その一緒に情死した男といふのが、繁々通つて來るうちに、到頭深く云ひかはす樣になつたんです子。それで何でも主人持ちの身なんださうですが、鄭の金には詰るが習ひ、終ひにやお定まりの遣ひ込みをやる、グズ〳〵すれば現はれるといふ仕儀になつたんもんですから、切迫つまつての末は、前云つた通りの情死沙汰なんです。マア情死なんテ隨分古風ぢやありますが、汚れた體だからといつて、悲しけりや涙も出ますし、切れば血も流れまさア子、慾得をはなれた戀もすりやア、その人の爲めなら死にもしませうサ、それに可哀想だつたのは、死ぬ間際までも子供のことは忘れられなかつたと見えて、チヤンと脊負つて居たぢやありませんか、加之も『これは他處行きに』つて拵えた、縮緬の晴衣を着せまして…………。』

私はこの話しを聞いた時、その人達を悲しい死の荒磯邊にうち上げた、運命のはげしい浪が、いま自分の身のほとりにも、ヒタ〳〵と押し寄せて來た樣に思はれて、ホントに怖ろしさに手を慄はせたのでした。

嗟呼こんな悲しい世の苦がい荒浪にもまれ〳〵て、そして終ひには、酷い世の戰ひに破れた憐れな亡骸を汚れた廓の中に殘して、情を知らない人の口の端にのぼるとは。わづかにかち得た戀の聖い血のあとも、その人達の足に踏まれて了ふとは。熱い涙も笑はれて了ふとは。私はホントにこの悼ましい二人に對して、はげしい涙を禁じ得なかつたのです。

その人は美しかつたといひます、その人はやさしかつたといひます。けれども嘆呼、美くしい野の花は、いつも荒い獸の足に踏み躙られて了ふのです。やさしい鳩の胸の血は、はげしい冬の吹雪に凍るものです。美くしくやさしい性に生れた彼女は、夢にだも決してそんな悲しい世渡りを仕樣とは思はなかつたでせう、まして彼女の母はいな、彼女を賣つた父とても……。けれ共悲しいのは弱いものゝ運命です。樂しい家庭に、やさしい妻となり、あたゝかい母となつて、世を安く送るべき身は、その實家が資產を失うと共に、追はる

ゝが如くは去られたのです。マアその時の心はどんなだつたでせう、子の可愛さと、夫の無情さと、世の味氣なきとに、野分になやむ小草の樣な胸をいだいて、どんなに泣いたでせう、どんなに悶えたでせう、私は到底想像することが出來ません。

そして其後、自分の身が賣られるといふ事を知つた時、私は想ひます、涙の涸れた盡きた彼女の目からは、屹と熱い血汐が流れたであらうと。嗟呼私し達の美くしい姉妹を騙つて、淺間しい巷に陷いれ、賤しい業はいをなさしめる人は、それを喜こぶ人の心は、ホントに酷いものではありませんか。けれどもまた、貧のためには可愛い自分の子をも、尙ほ賣らねばならぬ樣な世こそ、眞に憎むべく、呪ふべきものではありませんか。嗟呼美くしき子よ！、やさしき子よ！、弱き子よ！、賞むる性の柔和も、かゝる世に在ては、却つてその身の禍であつたのです。

殊に悲しいのは、別れた子を想ふ切ない情に、人形を負ふて死んだ心です。嗟呼『泥水商賣はして居ても慾得をはなれた戀もすれば、子供の可愛い位なとは知つて居ります』、やつぱり女の情は持つて居るのです、私し達の姉妹と同じき人なのです、世には彼女の死を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見て、笑ふ人は或はあるでせう、けれども彼女の悲しい心の悶えを察して、同情の涙に咽ぶものが果してあるでせうか。私は清く育つた彼女が、どんなに口惜しき業わひの月日を、恥ぢて、泣いて、悶えて送つたかを想ふだに、ホントに同情の涙をとゞむる事が出來ないのです。けれども一緒に死ぬほどに、心を許した人のあつた彼女は尚ほ幸福です、苦しい運命の手から遁れて、自由の國に戀を語る身となつた彼女は、實に幸福な身の上ではありますまいか。

嗟呼憐れなる、されど幸福なる彼女、數奇なる運命に弄ばれて、美はしき花の姿を、若うして死の手にゆだねた彼女に對しては、私は眞に同情の涙を禁じ得ないのです。そしてまたその後、私は幾度も私にこれを物語つた、藝妓の姿を見ましたが、漸々に老いて行く身の末を想ひ、陽氣に騷いで居る心の寂しさを想ひやつて、彼女こそホントに『慾得をはなれた戀はせず、子の可愛いといふ味も知らず』に、アゝして暮して、アゝして死ぬのかと想ふて、何だか悲しく想はれてならないのです。

動物の戀愛

大杉　榮

人間の兩性關係を考察するには、先づ生物全體の兩性關係を通覽して置かなければならぬ。と云ふので、嘗て堺君は其の『婦人新論』に於て、植物や動物の生殖作用を詳說せられた。僕も之れと同一の目的を以て少し高等動物の戀愛を語つて見たい。

最下級の動物、即ち原始動物に在つては、其の生殖はたゞに機械的分裂に依る。而して其の細胞には、素より男女の別がない。從つて、其の間に性とか戀とか云ふ問題の起りやうがない。稍々發達したものになると、二つの細胞が接合して、一つの新個體をつくる。即ち玆に兩性の現象を生ずる。然れども此の接合には何等の意識があるのではない。たゞ偶然に二個の細胞が相抱合したに過ぎない。

然るに高等動物に於ては、其の生殖方法の復雜すると共に、兩性の關係は甚だ微妙なものとなる。即ち、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男性は其の腕力、美色、美聲、美香等によりて、女性の歡心を買はんとし、女性は又、其の好む所に從つて自由に男性を撰擇する。

夕方になると、雄の蟋蟀は巣の入口に立つて、頻りに鳴きすだく。やがて雌の蟋蟀が、其の聲に聞き惚れて遣つて來る。雄の音樂家先生は大得意になつて、其の長い鬚で雌を撫でまはしながら、云ふに云はれぬ妙なる美音を發する。

トゲウヲと云へば冷血動物であるのだが、婿八人の間に、一人の嫁御寮を奪ひ合ふと云ふやうな事は、快して珍しくない。雄は又、いろ／＼手管を盡して、雌を其の巣に引き入れやうと誘惑する。そして目的の雌が巣の中に這り込んだ時には、それはモー狂氣のやうになつて踊り舞ふ。

其の他、蛙の喧すしく妻を戀ふのや、爬蟲類が雄同志の間に、激しく嫉妬の爭鬪をする事などは、人の能く見聞する事實である。又、鳥類や哺乳類の社會に於ては、雌が雄を撰擇する事の厳重なる、殆んど想の外

に出づるものがある。

蝦夷山鳥は交尾の時機になると、實に奇々怪々の歩き方をする。それは、雌の歡心を得んが爲めに、道々舞踏を演じながら行くのである。又、折々雄の小集會を催して、雌連環視の下に、或者は舞ひ、或者は踊り、或る者は歌ひ、己れ雌殿の御撰ひに預らうとあせり狂ふのである。そして其の度毎に、必ず雄同志の摑合、啄合の喧嘩が始まる。然しながら、此の喧嘩の勝敗は、必ずしも雌の選擇と係るのではない。即ち勝利者と雖も、雌殿の御意にかなわぬ者は、其の撰に預り得ないのである。

鳥類は又、雄同志の鬪爭を、極めて平和的に行ふ。其の美はしき羽色も聲音も、皆雌を誘惑するに供するのである。鶯が、寂しい森の木影に、春をつげまはるのも、矢張り雌呼ぶ狂ひ聲なのである。

哺乳類では牛と犬とが能く例にひかる丶。種牛が、老耄れた牡牛を嫌つて、あちこちと遁げまはるさまなどは、常に牧場に於て見受けらる丶圖である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ハルトマンと云ふ人の本に、こんな事がある。其の人の獵犬が、或る雌犬に戀して、夜な夜な、重い頸枷をひきづりながら、戀犬の許に御百度詣をする。そして曉方になると、がつかり弱りこんで、少しも狩の用に立たない。そこで、身動きも出來ないやうに、鎖でもつて縛りつけて置いた。すると、吠える、わめく、喧しくて仕方がない。とう〳〵鎖を切り放して、其の自由に任してやつた。此の獵犬は、常に其の戀犬の傍に侍つて、決しの他の雌犬と戯むるゝ事はない。

昆虫類になると、兩性が共棲をする。即ち、雌と雄とが、一の穴の中に這り込んでゐる。虫にも惡い了簡の奴はあるもので、雄の留守を窺つて、他の雄が忍び込まうとする。そして、玆に貞操なる雌と、無頼なる惡漢との間に、激烈なる格闘を生ずる。

此の共棲には、たゞに發情期間に限るもの、子を産み落すまでのもの、其の子の成長するに至るまでのもの等、いろ〳〵ある。鳥類の大部分、蝙蝠、狼、笹熊、鼬鼠、土龍、海狸、兎等は、皆此の第三種に屬する。

更に進んでは、雌雄が生涯の間共棲して、家族をさへ形づくるものがある。そして、其の貞操に關する話説も又、少なからずあるのである。鷹の如きは、雄が死ぬと、雌は一生涯獨身を守つて、決して他の雄と交らないそうだ。

鵠が夫婦して轉棲をする途中、其の妻が翼を傷けて飛ぶ事が出來なくなつた。すると、其の夫は、三年の間其の傍に在つて、あつく看護をしたと云ふ話がある。

又、一夫一婦の動物の中では、其の何かゞ死ぬと、他の一方の方も、必ず數時間の中に死ぬると云ふ奇習がある。雉鳩の如き即ち之れである。

斯の如く、吾人は高等動物の戀愛に於て、既に人類の戀愛に於けると、同一の二要素を認めるのである。即ち、配遇者を撰ぶに綿密なる注意を拂ふ事、及び此の撰擇の時を期して、濃厚なる交情を結ぶ事、即ち之れである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

平和、愛、希望、

深尾 昭

蒼海の底、光かゞやくあたり、美しくそゝり立つ宮殿に、名も『平和』と呼ぶ温和しき女神が住んで居ました。

『平和』は元と陸の上に住つて居たのでした。咲き競ふ色よき花は其の宮殿を圍み、影濃き木立は半ば其上に蔽ひかゝり、百鳥は終日樂しき歌を唱ひかはす景色はどんなに人の心を引く力があつたでせう。

『けれども噫…』やさしき平和は嘆息して申しました『あゝ此の住居は美しくはあらう。穏かでもあらう。けれども私は始終怒や爭の聲を開かない譯に行かないのではないか。時としては恐ろしい軍馬の音さへも遙かの彼方から響いて來るのではないか。噫、私は此んな痛ましい音に堪へ得るでせうか』。平和は遂に此の住心地のよい宮殿を棄てゝ、靜かな、冷たい海の底に住まねばならぬ樣になつたのでした。

かくて幾年か、彼女は浮世の煩はしき爭ひを他所にして、此處に無事幸福の日を送りました。風ふき荒み海あれて、山の如く崩るゝ怒濤の轟きも、彼女の住居を訪づるゝ頃は、只悲しげなる呟きと變ります。其の低く柔かき小波の呟をば、彼女は唯一の友としたのでございました。

さびしき住居に年を經るに從つて、彼女は故郷の陸に殘して來た妹たち二人が戀しくなり、とある心地よき冬の朝、留むる人もなき宮殿を辷り出て、青海原を徐かにわけ登りつゝ、住みなれし故郷へと急ぎました。そして、やがて彼の砂白く松青き岸に立つた時、彼女は其の見慣れたる風物の太くも遷り變つたのを見て、半ば悲しげに見やりつゝ、尙ほ妹たちを訪ねやうと急いで彼方に立去るのでございました。そして直ぐに會ひたい會ひたいと思つてゐる妹の『愛』が彼方より來るのを見た時、彼女はどんなに喜びましたらう。

平和は妹に飛びついて『おう愛さん！あなたが居ないで私どんなに淋しかつたでせう！あゝ嬉しい。あゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

嬉しい。私あなたに逢つて此んなに嬉しいとはない」言ひさして妹の顔を見て『オヤあなた何故そんな濟まない顔してゐるの？何か悲しい事でも出來て？」

『あゝ姉さん堪忍して頂戴な。私の周圍は苦勞と不幸で埋まつてゐるのに、私はそれを癒してやる力が無いんですもの。私姉さんに逢つてさへ嬉しい顔が出來ないのが、ほんとに悲しくて仕樣がありませんわ。」

『あゝ愛さん、あなたも可哀想ね。お止しなさいよ。そんな苦しい所なんか。海の家へ入らつしやいな。海の家へ來て私と一緒に暮らせば、そんな心配や苦勞は決して來やしなくつてよ。ね、愛さん、海へ入らつしやい。」平和は熱心に勸めるのでございました。

けれども愛は力なげに頭を振るのでした。『いゝえ姉さん、私此う思ひますわ。私どうしても此の世の中の人間の中に居なければならないと思ふんです。私タツタ一人なら何も生きてられる譯がありませんもの。それに、もし私が大勢の人を見棄てたら、世の中がどんなに悲しくなるかと思ふと、私どうしても自分勝手な

事は出來なくなるのです。姉さん、もしお氣を惡くしたら御免なさいね。私はあなたの務めも矢張此の世の中にある人ぢやあるまいかと思ふんです。多くの人々は私が入用の通り矢張あなたにも來て貰ひたい來て貰ひたいと思つてゐるぢやアございませんか。」

平和は何の應答もせず、首を垂れて深く考へ込んでしまひました。丁度その時、も一人の妹の『希望』といふのが其處に來ました。希望は小柄でありますが、すべて色艶の善い生々とした如何にも氣輕さうな娘でございました。

『オヤ希望さん！』と二人は小さき妹のさも〳〵愉快さうな顔色を見て飛び立ちました。『マア希望さん、ほんとに好く來て下すつたのねえ。如何してあなた無しに一日だつて暮らせやう！まあホントに今日はどんな好い用事で來て下すつたの？」

『私ね、淋しがつてゐる女の人があるの。それで今それを慰めて上げやうと思つて來た處なのです。其の人には獨息子があつて、それが舟乘をしてゐるんですが、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

幾月も幾月もモウ便りを寄さないので、おつ母さんは
どんなに淋しがつてゐるでせう。それで今日私が訪ね
てやつたのですが、入つて行つたばかりの時より歸る
時の方が餘つ程悲しみが薄らいだ樣ですから、私きつ
と力になつてやることが出來たんだと思ひますわ。私
これから毎日、息子さんの便のあるまで、おつ母さん
を見舞つて上げやうと思つてます。』と云つて希望は其
快活な微笑を湛へた眼に二人の姉を見上げました。
平和の考へ込んだ顏には益々憂への雲が掛りました
『希望さん、そんならあなたは、そんな面倒臭い心配も
悲しみも何も彼も忘れて、そんなおつ母さんなんぞも
打捨つておいて、遠い世ばなれた處へ行くのを善い事
だとは思はなくつて？』
希望は驚きの眼を見張りました。『マア姉さんは彼の
人を棄てるのですと？天にも地にも彼の人の杖柱にな
るのは私ばかりだのに、其の私が彼の人を棄てるんで
すツて？姉さん、あなたは私がそれほど自分勝手で、い
そんなにわるであると思つていらつしやるんですか？

いゝえ、私にやそんなことは出來やしません。私の務
めは矢張此の世の中にゐて出來るだけ多くの人を扶け
勵ますことなんですもの。私は是非自分の務めを仕遂
げますわ。』
希望の話の内に、平和は次第〳〵に頭を垂れて、其
眼には怪しくも涙が一パイに滿ちて居ります。そして
希望の話の途切れたとき、平和の喉からは低い調子の、
而も決心の聲が漏れたのでした。
『有難う。有難う。愛さんも平和さんも嘸腑甲斐ない
姉と思つておくれでせうね。けども今日といふ今日は
全然判つてよ。私の苟且にしてゐた務めをハッキリと
敎へて下すつた二人、私は妹とは思はない、大事な
大事な姉さんと思つて、私、心からお禮を云つてよ。
あゝ今日からは奇麗颯張と永年の我儘な生涯を止めま
せう。そしてあなた方が世の中を善くしやうと思つて
骨を折つてるのにお手傳をして、どうかして少しでも
人々を幸福にして上げませう。も一度私に海の家へ行
かせて下さいな。そうすれば私は其の家に永久の別れ
を告げて來ますわ。』（をわり）

雑誌瞥見

（前月中若社したる雑誌の中より）

●●●●●男女青年の墮落　今に始まりしとにはあらねど此頃更に事々しく論議せらる。吾人は世間の餘りに近視的にして『盗賊を見て繩を綯ふ』に類するの愚を見て、私かに可笑しさを禁ずること能はざるものなれども、兎にも角にも青年男女の墮落といふことは、我が雑誌界に於ても近來頻に八釜しくなり來れる問題なれば、今其の議論の一二を紹介するも無益の業にはあらざるべし。

▲「活動の日本」記者は十月號の同紙上に於て「男女學生墮落の眞相」と題し、世間が餘りに墮落墮落と騷ぎ立つるを嘲り、「元と是れ微々たる火片、一朝にして此の紛議を釀し騷亂を呈しぬ。然も此事たる果して斯かる重大なる事變を招く問題なるか。物見高きは世の常なれば或は謂はゆる彌次馬の騷ぎ立てゝ仰々しく世を驚かしたる一種の滑稽沙汰にはあらざるか。」といひ、墮落の事實を列擧しては「墮落の事實は平易なり、又其の經路は單純なり」而うして此の根本たる社會を改造することなくして墮落を救はんとするは、恰も黄河の水を澄ましめんが爲めに一磅の硫酸を流したる程の功をも收むる能はざるべし。濱の眞砂は盡くるとも墮落せる男女なからしめんことは到底望むべくもあらず。只刻下の急救策として甚だしき過なからしめんが爲めに彌縫策を實行するの外なかるべしとて、凡そ五種の救濟案を提出せり。

『活動の日本』記者のいふが如く此の小さき墮落の傾向に對して世間は餘りに神經的なり、餘りに盲動的なり。吾人は之を墮落なりといはんよりは寧ろ當然の傾向として、只如何に之を導くべきか、如何に之を處置すべきかに就いて考ふる所あらんと欲す、而も世間が墮落々々と恐れを爲して種々の救濟策に腐心せるは寧ろ滑稽なり。

▲「うらにしきは」繪葉書の流行につきて左の言を爲せり。曰く「……戀愛小説と繪葉書ブックとは好一對の什寶の如く、男女青年の間にもてはやされて、彼等を墮落せしむる媒介となれり……近頃ある女學生が七月一ヶ月に集まりし繪葉書なりとて誇りがに示せるを見しに、凡そ五六十枚、皆一枚七八錢以上に價するものなり。之を總計せば四五圓を下らざるべく、劣るを恥として更によき品質のを得て返事せんと競ふ習によれば、一女學生の一ヶ月の繪葉書代は優に四五圓を超ゆるものなり。あゝ何ぞ驕奢の甚だしき。此の無益の玩弄物にかゝる大金を棄つるを意とせざるものは、他の浪費を謹まざること亦推して知るべし……繪葉書は多く男女の交際に用ゐられ、高價なるを惜まぬをもて愛の表證となせるが如し。而も猶之に加ふるに卑猥なるものを擇びて其の陋劣極まれる心情を交換せんと欲するが如きは、嗚呼何たる不廉恥の醜行ぞや。」

然り、無益の玩弄物に大金を費し、此の不廉恥なる醜行を敢てして尚ほ墮落の道に急がんとする所以のものは何ぞや。人情を罔みし性慾を無視し故らに方正の言を爲す世論、遂に憐れむべき青年男女を驅りて玆に至らしめしものにあらずや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

支那人は近く自然に接す

前月中の諸雜誌を通じて議論の題目となれるものは先前項の墮落問題なるが、此外に面白しと見たる記事一つを拔萃す。

▲横濱にて發行せらる、「常盤」に曰く「支那人は好んで小動物を愛し、特に小鳥を愛せり。我は支那人が驚くべき方法を以て小鳥を訓致し鳥籠近くに立寄りて、いざ鳴けよと命ずれば、言下に小鳥の喋々として囀るを見たるをあり」

西太后の如きも亦空の小鳥をすら招き得る魔力を有すといふ。見るべし、無心の禽獸尚ほ且つ親しむ人に馴る。然るに頃日米國に於ける日本人排斥運動の如き、人類の醜惡愚劣なるを表彰するものあるに至つては吾人遂に涙なき能はず

記者より

深尾韶

▲讀者諸君に先づ第一にお詫び致さればならぬことは本誌の休刊です。實は先月も例の通り發行する積りで既に半以上編輯を終り、一部は活版所へ廻したのでありましたが、俄かに色々の都合から由分社が解散されることになり、從つて雜誌の經營も篤と相談せればならぬことになつたので、其等の片の付くまで一時本誌を休刊せればならぬ次第に立至つたのであります。

▲それで色々相談の結果、家庭雜誌は矢張り初號以來の世話人たる堀保子氏の手で經營することに決定し、本號より新たなる發行所に移つて發行したのであります。

▲それで今後の家庭雜誌は事務に就いては堀保子、編輯に就いては大杉榮氏が專ら其責に當ることに决しました。大杉君は堀保子君の良人で又小生等の親しき友であります。私は茲に諸君の前に新たに同君を紹介し得る事を喜びます。

▲堺君と小生とが今後も共編輯を助けるのは勿論であります。

▲色々の改革が行はれるにつけて編輯の體裁も一新することになり、今までは餘り議論の分量が多すぎたのを、これからはモ少し柔かいモ少し趣味のあるものを多く載せることに致しました。

▲本誌の定價が十錢であることは讀者諸君の爲にも本社經營の爲にも不利の感が致しますので此機會を利用して定價も第三卷までの通りに復舊いたしました。從つて頁數は減少致しましたが、小いページの內に、今迄よりも寧ろ多き善き材料を容れやうと希ふのが編輯局員苦心の存する所であります。而して既にお拂込の前金は本號以下の分を換算して、前金切の節それぞれ帶封で御通知することと致します。

▲家庭雜誌の爲には今度の變更は一大革命でございました。それで卷も此處で改めるがよからうといふ說がありましたので本號を第五卷第一號と致しました。何もかも改まつた今後の本誌は大に讀者諸君の御助力を得て益々健全に成長させたいと思ひます。

▲本號の小生の文は相變らず面白くないもので甚だ慚愧に堪へません。只今後修練を積んだなら、庶幾くば少しは物になる時もあらうかと思ふのであります。

注意

由分社解散につき今後本紙の編輯及營業事務に關する用向は總て左の處へ御申越を乞ふ

東京牛込區市ケ谷田町二丁目廿二番地

家庭雜誌社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(Kono ran wa Fukao Sho go kaku.)

Mudaboneori.

Rōmaji no bun o kaki, Rōmaji no giron o suru koto wa mudaboneori da to yū hito ga aru. Sono riyū wa? to kikeba, Rōmaji de kaita mono wa Nipponjin ni mo yomezu, Seiyōjin ni mo wakarazu, soreni, Rōmaji ga waga kuni no monji to shite tsukawareru yō ni naru ka naranu ka mo wakaranai mono o, to yū.

Naruhodo, mada mi ga naru ka naranu ka wakari mo shinai ine no nae ni koyashi o yattari kusa o totte yattari suru no wa mudaboneori de aru ka mo shirenai!

Yoshite shimaō ka?

Sekkaku Rōmaji ran o kono zasshi ni koshiraete oite mo yonde kudasaru kata mo sukunakereba, iken o nobete kudasaru kata mo hotondo nai. " Isso no koto Rōmaji ran nante yoshite shimao de wa nai ka," to yū setsu ga henshūkyoku ni okotta. Keredomo Boku wa kubi o futta. " Rōmaji ran o oite waga kuni no monji, bunshō no shimpo o tasukeru no wa, sukunaku tomo, zasshi o hakkōsuru mono no gimu de aru " nado to muzukashii giron o mochidashite " dōzo, Boku no tame bakari ni mo, Rōmaji ran o oite kudasai " to itta.

Boku wa waga Rōmaji-biiki no dokusha shokun to tomoni tsutomete kono ran o omoshiroku shite ikitai to omou.

Tsuzuri kata.

Rōmaji no tsuzurikata ni tsuite no Boku no iken wa dai 4 kan de taitei nobetsukushita. Ikkojin no iken wa iken to shite, betsu ni, *genzai no* tsuzurikata wa itteishite okaneba naranu. Kanji to yū teki ni ataru ni wa Rōmaji no gunzei o totonoete okaneba naranu. Boku " Ichiban warui Rōmaji de mo Ichiban ii Kanji yori wa mashi da " to yū kangae de, kyō kara no jibun no bunshō ni wa Mombushō no sadameta tsuzurikata o tsukau koto ni shita. Rōmaji Hirome Kwai de mo kono koto ni tsuite wa tokuto sōdan chū to yū koto de aru.

改正定價

一部	金六錢
六ヶ月前金	三十二錢
一ヶ年前金	六十錢
(何れも郵税共)	

廣告料

特別一頁	十圓
普通一頁	七圓

▲本誌は毎月一回(一日)發行とす。

▲代價は小爲替を以てお送り下さい。郵券代用ならば五厘切手で一割増に願ひます。

▲御注文の時は必ず何卷何號より何號まで何册の前金と明瞭に御記載を願ひます。

▲御手紙には必ず住所姓名をハッキリとお書き下さい。又御轉居の際は新舊の宿所を併せて御通知を乞ふ。

▲本誌は前金でなくては一切御註文に應じませぬ。前金の切れた時には帶封に「前金切」と朱印を捺して上げますから御注意下さい。

▲歐米諸國よりの御注文は別に一册に付二錢づゝの郵税を申受けます。

明治三十九年十月三十日印刷
明治三十九年十一月一日發行

東京市麹町區元園町一丁目廿七番地
發行兼編輯人 堺 利彦

東京市京橋區日吉町十番地
印刷人 中村 彌助

發行所 東京牛込市ヶ谷田町二丁目廿二番地 家庭雜誌社

大賣捌所 上田屋 東京堂 良明堂 東海堂

手輕

いも菓子製法

百種

本書は雜誌月刊食道樂の臨時增刊にしていもを以て百種の菓子の製法を記せるものなれば忽ちお臺所にて應用して手輕に出來る重寶無類の書物なれば家庭に一冊は必らず備へられん事を望む

定價 金廿四錢 郵稅共

月刊 食道樂
一部 金十二錢
六部前金七十錢
十二部前金壹圓卅五錢
郵稅共

發行所 東京市麴町區有樂町三丁目 有樂社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

製造元

花島煉乳場

伊豆國三島町

○各位の家庭の花の一層美はしからんが爲に

○遠來の輸入品よりも新鮮なる内地製煉乳を薦む。

發賣元

逸見山陽堂

東京日本橋區大傳馬町一丁目

（電話浪花二一五番）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●歯科治療 自午前八時至午後六時●

神田區須田町二十六番地

歯科醫 吉瀬才市郎

勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意
晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

◉眼科診察 毎日午前◉

京橋南佐柄木町五
(電話新三四五八) 川上眼科院

外科皮膚病 梅毒痔痳 外科的婦人科尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

月刊雑誌 簡易生活

十一月一日 第一號發行

價一部郵稅共八錢 三ヶ月分全廿二錢 半年分全四十二錢

◉これ人生當面の一大福音なり(第一號要目左の通)
▲簡易生活主義(上司小劍)▲ゾラ詳傳(正宗白鳥)
▲虚無黨の簡易生活(幸德秋水)▲佛國の簡易生活
(寺尾亨)▲共同と平等(堺利彦)▲家庭のカイゼル
(田中珂川)▲通夜のつとめ(白柳秀湖)▲二つの罪
惡(山縣五十雄)▲小說火の雨(上司小劍譯)
◉これ人生永久の一大活路なり(此外にも記事あり)

發行所 東京芝區白金三光町三百九十二番地 簡易生活社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

瓦斯引用の大御便利

燈火用
煮焼用
煖爐用
機關用

の瓦斯管**取付費用**（材料共）は本月より總て**申受けざる**ことに改め「ランプ」代は御自辨とし一燈に付**金九拾錢**以上御好の品を取付け可申又瓦斯竈、七輪、西洋料理器、湯沸器等は御望に依り月賦にて最も割安に販賣可仕瓦斯煖爐は別に損料貸の便法を設け低廉の料金にて御貸渡し可申上候

は「メートル」の位置迄の取附費用を受けず又機關は御便利の爲め英國製最優等品を三ヶ年の月賦にて最も割安に販賣可仕候

●御申込は電話、はがき、口頭にて御通知次第係員出張可仕候

神田區錦町三丁目
東京瓦斯株式會社

明治三十九年五月

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌第五卷第一號　明治三十六年四月五日第三種郵便物認可　明治三十九年十一月一日發行

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覧會

名譽銀牌受領

發賣元　東京　小林富次郎

粉製　**赤罐入**　發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色罐入にして頗る携帯に便なり能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貳錢

發兌元　大阪　小林支店

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店